

アステクノス拠点続々

中国に法人、愛知新工場

FA需要 拡大で

ファクトリーオートメーション(FA)設計、販売のアステクノス(静岡市駿河区、有我敦司社長)は国内外で新拠点を相次ぎ開設する。中国・蘇州市に現地法人を設立。愛知県豊明市では新工場の建設を決めた。既に生産拠点のある米国を含めた日米中の3極で事業を加速させ、自動車関連メーカーを中心とする生産効率化や省力化の需要を取り込む。



手狭になっている豊明インター工場。取引先の設備投資需要を取り込むため近隣に第2工場を新設する。愛知県豊明市アステクノス提供

見込み、3年で3億8千万円まで引き上げる計画。

豊明の新工場は伊勢湾岸自動車道豊明インターチェンジ付近にある既存工場の近隣に建設する。名称は「豊明インター第2工場」。

約5600平方メートルの土地を取得済みで、2020年3月の完成を目指す。総投資額は約8億円。主要取引先の自動車関連メーカーは省力化や自動化に向け設備投資を活発化しているため、既存工場が手狭になっていた。

同社は取引先のニーズに合ったオーダーメイドのFAを手掛け、豊明のほか静岡市や神奈川県厚木市、米国のケンタッキー州などに生産拠点を置く。有我社長は「少子高齢化や人手不足を背景に、今後FAの需要は拡大する」と強調する。

同社の18年3月期の売上高は32億円。19年3月期は46億円を見込む。(経済部・森田憲吾)

蘇州の現地法人は4月から営業を始めた。対し、FAに関する技術指導などを行い、高い品質で低価格の製品を

日系自動車関連メーカーに売って高く売る。初年度は約8千万円を